

**October 5, 1990**

**Cable No. 987 from Ambassador Sengoku Takashi  
(Turkey) to the Minister of Foreign Affairs, 'The  
Prime Minister's Visit to the Middle East (Meeting  
With King Hussein of Jordan)'**

**Citation:**

"Cable No. 987 from Ambassador Sengoku Takashi (Turkey) to the Minister of Foreign Affairs, 'The Prime Minister's Visit to the Middle East (Meeting With King Hussein of Jordan)'" , October 5, 1990, Wilson Center Digital Archive, Published online by the Ministry of Foreign Affairs of Japan, File 2021-0533. Translated by Stephen Mercado. <https://digitalarchive.wilsoncenter.org/document/300978>

**Summary:**

Summary of Japanese Prime Minister Kaifu's meeting with Jordanian King Hussein. The two discuss Iraq's invasion of Kuwait and the difficult position it put Jordan in, as well as each country's official stance on the conflict and other issues in the region.

**Credits:**

This document was made possible with support from The Woodrow Wilson International Center for Scholars

**Original Language:**

Japanese

**Contents:**

Original Scan  
Translation - English

主管課緊急処理用

注意

- 1. 本電の取扱いは他電を併せのり
- 2. 本電の内容に付して照会は検出班 (内線2171, 2174)
- 3. その他本電の取扱い等に関する照会は調整班 (内線3169) に連絡ありたい。

極秘

電信写



① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

ア 経外査即 博  
大 大 察 位 代  
使 使 研 審 準 表

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

総番号 R200189 主管 近 1  
 月 5日 トルコ 発  
 平成 2年 10月 5日 本省 着  
 外務大臣殿 仙石大使

総理の中東訪問 (フセイン・ジョルダン国王との会談)

第987号 極秘 大至急

△△◎Aジョルダン, イラク, クウェイト◎230, 220◎C310△△

4日、総理とフセイン・ジョルダン国王との会談が11時40分から約1時間行われたところ、概要次の通り (当方、小和ダ外審、野々山大使、ワタナベ近ア局長、木バタ経協局長、先方、ハッサン皇太子、バドラーン首相、シャーケル王きゆう府長官、アブー・オデー政治顧問、大蔵大臣、商工大臣、情報大臣ほか同席、通訳ツルオカ)。

1. (1) フセイン国王より次の通り述べた。

ジョルダンを訪問いただいたことに感謝したい。ジョルダンは今、友人を必要としている。今回の日本からの支援に対し深くおれいを言いたい。日本とジョルダンは長い友好関係にあるが、自分(「フ」)は特に日本の皇室との友情を有難く思っている。日本とジョルダンは中東地域と世界の安定に対し共通の願望を有している。この困難な時期に来訪されたことを改めて歓迎する。

(2) これに対し、総理より次の通り述べた。

出発前にてん皇へい下より国王によるしくとの御伝言をおあずかりしてきた。昨日来、ハッサン皇太子、バドラン首相と有意義な会談を行ないわが国の援助の内容をお話した。国王から改めて謝意の表明をいただいたことに感謝する。ジョルダンが経済制裁実施により大きな経済困難に直面していること、難民の受け入れで大きな負担を負っていることを承知している。今後もできるだけの協力をしたい。8月2日以来、湾がん危機の平和的解決のため休みない努力が続けられていることにけい意を表する。この機会に今後の見通しにつき貴見をうかがいたい。

## 電信写

2. これに対しフセイン国王は次の通り述べた。

7月、イラクとクウェイトの間に問題が生じたことを知り、警戒すべき状況と考へて両国を訪問したが、双方にばかりと失望のすることを知り、危険を回避すべくクウェイトに訴えジェッタ会議にこぎつけた。しかし、8月2日の事態となつたが、その時期・規模は全く自分（「フ」）の予想外であつた。自分（「フ」）は8月2日直後、イラクからクウェイト撤退及びミニ・サミット出席のコミットを取り付け、アラブによる解決の可能性ありと考へたが、その機会は失なわれてしまつた。この事態を放置すれば、クウェイトの回復にとどまらずイラク自身の破かいにまで行きうる。この場合、この地域の石油、大量破かい兵器の存在を考へれば、戦火の影響は測りしれないものがある。そこでかかる爆発的事態を防止するため努力している。

イラク・クウェイト紛争の原因はいくつかあるが、これらはいずれも外部勢力による歴史上の統治の遺産であるか、あるいはイラク経済にとり死活の問題である。第1はイラクに海への出口がないこと、第2は両国間に油でんに関わる紛争があること、第3に石油価格についてのOPEC内での争いがあること、そして第4に地域内の持てる国と持たざる国のかく差の問題である。

ジョルダンの本件事態に対する原則は、第1に力による領土へい合を認めないということ、第2にアラブ内で説得によつて解決すべきこと、すなわち、力によらず外部勢力に依存しないこと、第3にクウェイト正当政府を承認し続けること、ただしくウェイト国民による完全に自由な決定があればそれを認める、第4に交渉による解決が必要であること、この関連で国際社会はパレスチナ問題につきイスラエルとの交渉により解決されるべきであると言ひ続けてきている、第5にあらゆる国連決議を誠実にじゆん守するということである。国連においては今次事態の解決につきアラブの役割が認められていない。他方においては、今次事態の原因そのものに取り組まなければ解決は不可能であり、そのためには妥協が必要である。

3. 以上に対し総理より、本件の安保理決議に従つた公正かつ平和的な解決、経済制裁じゆん守、そのためしゆうへん国支援等を中心にわが国の基本的立場を改めて説明した。

4. これに対し、フセイン国王が述べたところ次の通り。

(1) イラクが経済的に首をしめ上げられ、外交的努力も効をそうさなくなつたとの感情は理解すべきである。また、イラクには明らかにサウデイ侵攻の意図はなかつた。イラクは国境係争地帯だけを占領したのはクウェイトに外務勢力が侵攻し押しもどされてしまうと考へてたのであろう。イラクのクウェイト侵攻は、

R200189-03

極秘

## 電信写

そうしなければイラク自体の死活の問題を解決できなかつたということであり、これにおどろいた他のアラブ諸国が外部勢力の導入を図つてしまつた。

(2) 自分(「フ」)は、国連決議の原則が守られるべきことについては全く同感である。ただ、地域の問題の原因そのものの解決が同時に必要である。そこでアラブ内の異なる立場の国によるブロックを作り、話し合いによる解決の可能性をさぐりたいと努力している。

(3) パレスチナ問題については、今次事態とリンクされるべきではないが、今次事態が解決され次第これに取り組む必要がある。また、この地域の持てる者と持たざる者とのかく差の縮小も必要である。

(4) いわゆる人質問題については、自分は最大限の努力をしてきた。ただイラクは人質が戦争のぼつ発を防止していると信じ込んでいる。自分はこの問題につき今後も働きかけていくつもりである。

(5) 日本とジョルダンと共に平和的解決を求めている。戦争はすべての国の国民に影響を及ぼしこの地域の不安定化をもたらす。また、せい地の守護者たるべきサウデイ・アラビアが外国軍を導入したことはアラブの感情をきずつけている。自分は、明日、将来のために一かんして努力を続けたい。

5. 以上に対し総理から次の通り述べた。

日本とジョルダンが共に平和的解決を求めているのはその通りであるが、日本の立場は、国際社会ちつ序の原則の問題として、先ずイラクのクウェイトからの撤退、クウェイト正当政府の復帰が行わなければならないというものである。その後初めてイラク・クウェイト間の紛争の解決もパレスチナ問題の解決も可能となる。多国籍軍はまさにかかる目的のための経済制裁の確保のために存在するものであり、その故に日本はこれを支持している。

6. 国王より、イラクを破かいするための軍事力行使の及ぼす影響は予測もつかないものであろう、それはこの地域に力の不きんこうを生みまた力の空白を生ぜしめるであろう、日本とジョルダンは目的を同じくし原則も同じくすると考える、ただ今次事態の原因に取り組むドアを開けておく必要がある、このことは特にアラブ域内のものにとつて必要である旨述べて会談を終了した。

サウデイ、エジプト、ジョルダン、オマーン、イラク、米、ジョルダンに転電した。(了)

Secret

Telegraphic Copy

[blacked out]

Number R200189

Primary: First Middle East Division

October 5, 1990 [time blacked out]

Sent [from] Turkey

October 5, 1990 [time blacked out]

Arrived [at] Ministry

[to] Minister of Foreign Affairs

[from] Ambassador Sengoku Takashi

The Prime Minister's Visit to the Middle East (Meeting With King Hussein of Jordan)

No. 987

Secret

Top Urgent

[blacked out]

□□□A Jordan, Iraq, Kuwait□230, 220□C310□□

On October 4, the meeting of the Prime Minister and King Hussein of Jordan took place for approximately an hour from 11:40. Following is a summary of its main points. (Present on our side were Owada Hisashi, Deputy Minister for Foreign Affairs; Nonoyama Tadayuki, Ambassador to Jordan; Watanabe Makoto, Director of the Middle Eastern and African Affairs Bureau; and Kowata Shoshichi, Director of the Economic Cooperation Bureau. Present from the other side were Crown Prince Hassan; Prime Minister Mudar Badran; Zayd bin Shakir, Chief of the Royal Court; Adnan Abu Odeh, political advisor to the King; Minister of Finance; Minister of Commerce and Industry; Minister of Information; and others. Interpreter: Tsuruoka Koji)

1. [no subhead]

(1) King Hussein said the following:

I would like to thank you for visiting Jordan. Jordan is now in need of friends. I would like to express my appreciation for the present support from Japan. Japan and Jordan have long had friendly relations. I (Hussein) am particularly grateful for the friendship with Japan's Imperial family. Japan and Jordan have a common wish for stability in the region of the Middle East and in the world. Again, I welcome you on your visit here at this time of difficulty.

(2) In reply, the Prime Minister said the following:

I was entrusted by His Majesty the Emperor before leaving Japan with conveying to you, King Hussein, his regards. Since yesterday, I have had with Crown Prince Hassan and Prime Minister Badran fruitful meetings in which we discussed the substance of Japanese aid. I thank the King for expressing once again his gratitude. I am aware that Jordan is facing great economic difficulties due to the implementation of the economic sanctions and is bearing a great burden in accepting the refugees. I would like to continue cooperation as much as possible. I express my respect for your ceaseless efforts since August 2 for a peaceful settlement of the Gulf crisis. I would like to hear your view on future prospects.

2. In reply, King Hussein said the following:

In July, aware that that a problem had arisen between Iraq and Kuwait and considering the situation to be an alarming one, I visited both countries. Aware of the anger and disappointment on both sides, I appealed to Kuwait to avoid a crisis and

managed to arrange the Jeddah Conference. However, the situation of August 2 took place. I (Hussein) had completely not foreseen either its time or scale. Immediately after August 2, I (Hussein) obtained from Iraq a commitment to withdraw from Kuwait and attend a mini summit. I was thinking that there was a possibility of a settlement by Arabs, but that opportunity was lost. If we let the situation take its own course, it could result not only in the recovery of Kuwait but in the destruction of Iraq itself. In that event, taking into consideration the oil and the weapons of mass destruction, the effects of a war are unfathomable. Therefore, I am working to prevent such an explosive situation.

There are several sources to the conflict between Iraq and Kuwait. They are either the historical legacies of rule by outside powers or issues of life or death for Iraq's economy. The first issue is that Iraq has no outlet to the sea. The second is that there is a conflict between the two countries over oil. The third one is that there is a struggle within OPEC over the price of oil. And the fourth is the gap between countries in the region that have and those that have not.

Jordan's principles regarding this situation are: (1) Jordan does not recognize the annexation of territory by force. (2) This issue should be settled among the Arabs by persuasion, that is to say, not by force and not by relying on outside powers. (3)

Jordan continues to recognize the legitimate government of Kuwait but would recognize a completely free decision of the Kuwaiti people if there were one. (4) Settlement by negotiation is necessary. In this regard, the international community has continued to say that the Palestinian issue should be settled through negotiations with Israel. (5) This means sincerely observing all United Nations resolutions. In the United Nations, the role of the Arabs in the settling of this issue is not recognized. On the other hand, a settlement will be impossible if we do not come to grips with the sources themselves of the present situation and, for that, compromise will be necessary.

3. In reply to the above, the Prime Minister again explained Japan's fundamental position, centered on a just and peaceful settlement of this matter in line with Security Council resolutions, the observance of economic sanctions, and, for that reason, aid to front-line countries.

4. In reply, King Hussein said the following:

(1) Iraq's feeling that its economy is strangled and that diplomatic efforts have not succeeded should be understood. Also, there is clearly no intention on the part of Iraq to invade Saudi Arabia. Iraq probably thought that if it occupied only the disputed border area, then outside forces would invade Kuwait and push it back. Iraq invaded Kuwait because it could not settle its own life-or-death problems if it did not. Other Arab countries, surprised by this, sought to bring in outside powers.

(2) I (Hussein) am completely in agreement that the principles of the United Nations resolutions should be observed. However, a settlement at the same time of the sources of the region's problems is also necessary. Therefore, I have been working to create a block of countries with different positions among the Arabs and explore the possibility of a settlement via talks.

(3) Regarding the Palestinian issue, it should not be linked with the present situation, but we need to come to grips with it once the present situation is settled. In addition, we need to shrink the gap between those in this region who have and those who have not.

(4) Regarding the so-called human rights issue, I have done my utmost. However, Iraq firmly believes that the hostages are preventing the outbreak of war. I intend to continue working on this issue.

(5) Japan and Jordan are both calling for a peaceful settlement. War would affect the peoples of all the countries and would destabilize this region. In addition, Saudi Arabia, which should be the guardian of the Holy Land, has hurt the feelings of the Arabs by its introduction of foreign troops. I would like to continue working consistently for tomorrow and the future.

5. In reply to the above, the Prime Minister said the following:

It is true that Japan and Jordan are both calling for a peaceful settlement. Japan's position is that, as an issue of the principle of international social order, first Iraq

must withdraw from Kuwait and the legitimate government of Kuwait must be restored. Only after that will it be possible to settle conflict between Iraq and Kuwait and to settle the Palestinian issue. For that reason, Japan supports it.

6. The King said the following: The effects of using military force to destroy Iraq will be unpredictable and will likely produce an imbalance of power in the region and give rise to a power vacuum. I think that Japan and Jordan share the same objectives and the same principles. However, it is necessary to open the door to coming to grips with the sources of the present situation. This is particularly necessary for the Arabs in the region. With that, he ended the meeting.

Passed to diplomatic missions in Saudi Arabia, Egypt, Jordan, Oman, Iraq, the United States, and Jordan. (End)